



青森県 ITER計画推進会議 視察会

【技術交流トピックス】

2月18、19日に青森県 ITER計画推進会議(推進会議)による福井県地区の視察会が行われました。推進会議は、ITERプロジェクトの情報提供や地域企業との協力体制作りのために、青森県、商工会議所が主体となり発足されたもので、今後さらに原子力技術と青森県企業の連携を進めようと計画されています。今回の視察会では、原子力廃止措置研究開発センターの解現場の見学や地域企業の参入の現状について意見交換がなされたほか、今まで福井県で実施してきた技術相談、成果展開事業の実施事例として、山田技研(株)(冬季路面センサーなど)、石川製紙(株)(新規和紙)、大鉄建機(株)(ゴムクローラの廃棄処分)の各企業の製作現場を直接訪問されました。企業の方々からは、成果が出るまでの苦労話や原子力機構への思いなどを説明して頂き、今までにない内容の濃い視察会となりました。特に2日目の武生商工会議所では、原子力産業・地域企業・行政の連携協力を始め、今年度に開始した「レーザーを活用した越前打刃物企業関係者との技術交流会」について、打刃物協会の理事長より原子力技術との以外な結び付きや原子力機構への期待をお話頂きました。

参加された推進会議の方々からは、原子力事業者と企業のお互いの努力が必要な事や、福井県の企業(社長さん)の熱意の素晴しさなど、今回の視察会が有意義であったご意見を頂き無事終了することが出来ました。

今後も青森県と連携・協力して、原子力機構の技術が展開出来るよう進めて行きます。



平成21年3月18日
山田技研(株)訪問



平成21年3月19日
ふげん 解現場見学



平成21年3月19日
武生商工会議所での意見交換

【技術相談】

第3回 ふくほうビジネス商談会

今年3月13日、武生商工会議所にて、福邦銀行様主催の商談会で成果展開活動の紹介とブース展示をいたしました。当日は200名を越える企業の方々に参加され、新製品の開発や、環境に関する5件の技術相談を受け、有意義な時間を過ごすことができました。今年度最後にあたるブース展示でしたが、一年を通してこのような展示会で非常に多くの方々と交流を持つことができました。次年度も原子力機構の成果展開活動を多くの方々に知って頂くため、新たな取組み、事例紹介などを分かり易く紹介できるよう工夫しながら進めて行きたいと思っております。展示会でお見かけの際には是非お越し下さい。

一口メモφ(^▽^)/

梅の種を炭にして水の浄化に利用できないか…。
思いつきで挑戦してみたら…。
あまりの小ささに炭ではなく灰に…。
失敗を繰り返し、試行錯誤しましたが炭化に成功
v(^-^)/bぶいっ♪

技術相談から商品化を目指して

原子力機構では、今年度も多くの企業の皆様から機械・食品・農業・環境等々、多種多様な技術相談を受けています。そんな中よく問われたことは、食品分野での原子力の技術が利用できないかという点です。特に放射線を活用したものづくりに関しては多くの方々から質問を受けます。もちろん食品等にかかわるものに放射線を使うことは我が国ではまだ普及していませんが、産業分野ではかなりの実績があります。食品分野で今年、若狭町のワカサ施設管理(株)さんから廃棄処分される規格外の梅や梅酢を、市場も期待でき、加工作業も高齢者でも十分対応ができるような方法が無いかと技術相談を受け、1年間実用化に向け共同研究を行いました。梅については、前年度に果肉障害対策について取り組みましたが、食品加工となると初めての試みです。梅は生もの、加工するには一時期に集中しなければならぬ通年型作業に向かない食品ですが、前年度で取り組んだ梅の特性の知見を活かし、作業工程の改善と共に共同開発に取り組みました。

結果、原子力機構の技術を使いながら数種類の産品を共同で開発する事に成功しました。共同研究開発された産品の市場化を図る為、更に付加価値化を目指し、引き続き共同で新たな商品開発に取り組んでいます。